



第43号

平成21年2月

発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
☎ 0478(52)1000

第三二回全国町並みゼミ

「佐原・成田大会」せまる

特定非営利活動法人・全国町並み保存連盟が毎年開いている「全国町並みゼミ」の第三二回「佐原・成田大会」が十一月十三日(金)から十五日(日)の三日間、佐原と成田の共催で行なわれます。その概要について「NPO・小野川と佐原の町並みを考える会」の高橋賢一理事長に聞きました。

歴史的な資源を活かしたまちづくり

全国へ発信

第三二回全国町並みゼミ「佐原・成田大会」は、前記のような日程で、佐原地区をメイン会場にして開催されます。

全国から町並み保存やまちづくりの関係者が六百名ほど集まり、議論を交わす大きな大会になります。

今回は、佐原や成田の地域性をふまえた「歴史的な資源を活かしたまちづくり」を大会の中心テーマとしています。

平成21年の新春を迎えて
**まちの賑わい創出
ますます活性化す
骨董市は5万人集客を達成**

平成二十一年の新春を迎えて、佐原町並み交流館は一月二日より開館し、沢山のお客様にご来館をいただきました。
四日には、恒例の佐原囃子愛好会恵壽美の協力で華麗な獅子舞が一階ホールにおいて午前午後二回にわたり披露されました。
ご入館の皆様を厄を払うとともに、佐原囃子の演奏で幸先の良いスタートを切りました。

私達NPOと香取市との共催で平成十八(二〇〇六)年六月に始まった「骨董市」も今年の一、四日(三、四)目を迎え、五万人の入場者数を記録することとなりました。幸運の入場者には記念品が渡され、記録達成を祝いました。
「まちの賑わい創出」の取り組みが着実に実績をあげていることを示すものといえるのではないのでしょうか。



高橋理事長より五万人目の入場者に記念品の贈呈

佐原の食めぐり

江戸後り佐原の食めぐり

二月二十八日(土)〜三月八日(日)

この幟が目印です

「雑めぐり」とともに、佐原の「食めぐり」はいかがですか
(のれん班)

市民の大勢のみなさまにも、まちづくりや町並み保存に興味をお持ちの方々には、ぜひ積極的にご参加をお願いしたいと思います。

十三日(金)は、佐原駅北口の文化会館で開会行事が午後からおこなわれます。
基調講演は、佐原の重要伝統的建造物群保存地区の選定に中心となつてかかわっていただきました文化庁の主任調査官・刈谷勇雅(現・文化庁監査官)にお願いいたします。「佐原の町並み保存」と本大会のテーマである「歴史的な資源を活かしたまちづくり」についてお話をうかがう予定です。



佐原の小野川を佐原囃子とともにのぼって行く「線入り舟」

二日目の十四日(土)は、佐原と成田の二地区に分かれて分科会が行なわれます。

分科会のテーマは

- 一、民・官・学による歴史まちづくり(皆でまちづくり)
- 二、水を活かしたまちづくり(水資源を見直す)
- 三、町並みと人並み(祭りや行事が生きるまち)
- 四、町並みを楽しむ体制づくり(町並み観光ガイドを育てる)
- 五、まちに活気と元気を取り戻す(イベントやまちづくりをどう進めるか)
- 六、町並みの再生と資源化(町並みは継続して創られる)



成田の新勝寺門前をめぐるレトロ・バス

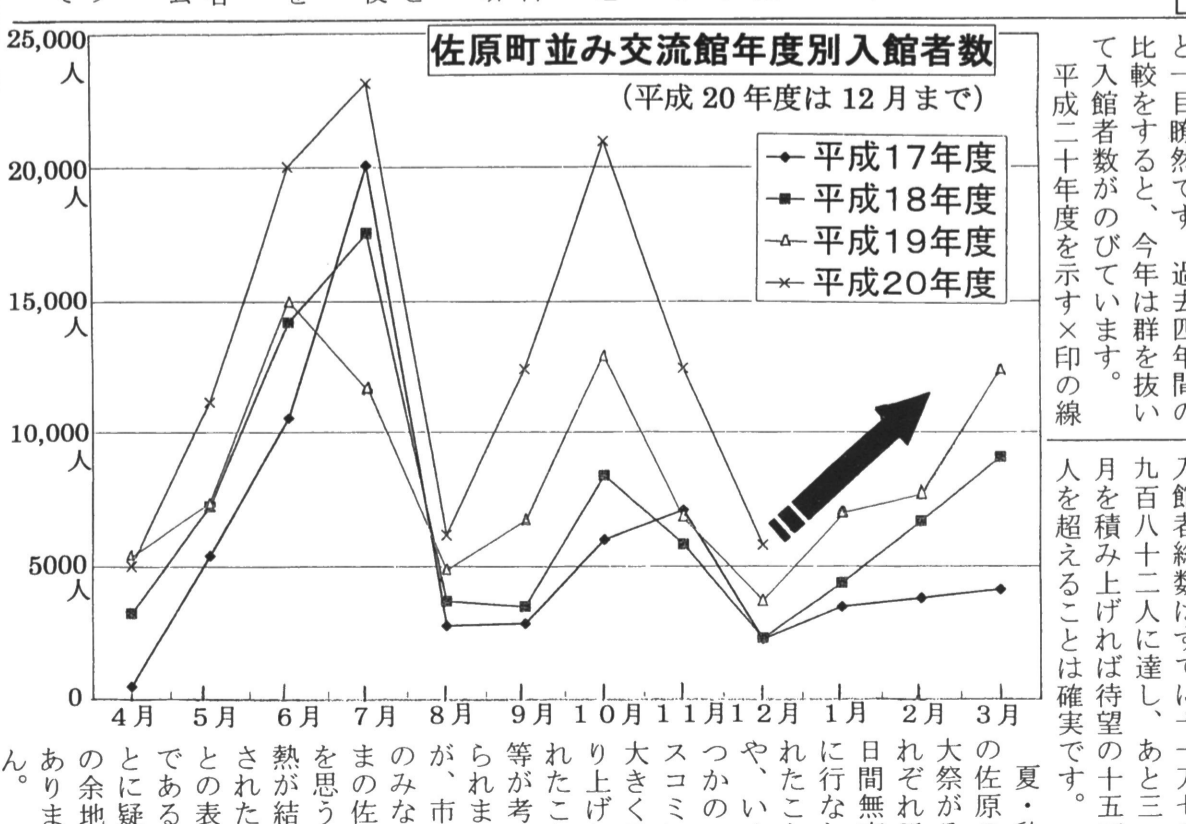
市民との交流も期待
佐原での分科会は、半日単位で、午前・午後の二組にわかれ町中でツアーのグループを見かけましたら、全国からお越しの皆様ですので、ぜひお声をかけていただくとともに、佐原の町を説明していただけたらと思います。

全国からは、それぞれの分科会の内容に実績のある団体や研究者が参加すると思われ、先進地区の情報が得られるとともに、地元にとっても大変役立つ内容が交流されますので、市民の方々の積極的なご参加をお願いするところです。
最終日の十五日(日)は、各分科会の報告とまとめの全体会が行なわれます。
午後には周辺地域を巡るオペショナル・ツアーが予定されています。

佐原では六分科会、成田では四分科会、計十の分科会が予定されています。
佐原での分科会は、一、民・官・学による歴史まちづくり(皆でまちづくり)二、水を活かしたまちづくり(水資源を見直す)三、町並みと人並み(祭りや行事が生きるまち)四、町並みを楽しむ体制づくり(町並み観光ガイドを育てる)五、まちに活気と元気を取り戻す(イベントやまちづくりをどう進めるか)六、町並みの再生と資源化(町並みは継続して創られる)成田は、成田山新勝寺の門前の通りを生かしたまちづくりに関するテーマについて四分科会が話し合いが行なわれます。

佐原町並み交流館からのお知らせ

- [花の器・榮森文枝陶芸展] 2/1(日)~2/28(土)
- [佐原工芸作家展] 2/1(日)~3/31(火)
 - ・伝統工芸・佐原張子 伝統工芸師・鎌田芳朗
 - ・線の工芸・切り絵 切り絵作家・野口正博
 - ・ミニチュア・フード 日本ドールハウス協会 公認講師・橋本京子
 - ・自然を編む/つる工芸 国立新美術館展・現展入選作家 藤ヶ崎たつ子 北崎みち子
- [魚谷幸子水彩画展] 一佐原との出会い 3/1(日)~4/12(日) 第7回イカ墨で描く水墨画コンクール グランプリ受賞



昨年の五割増

佐原町並み交流館の入館者

今年は十五万人を突破か

佐原町並み交流館の入館者総数がいよいよ年間十五万人を突破しそうな勢いです。
左のグラフをみていただくと一目瞭然です。過去四年間の比較をすると、今年は群を抜いて入館者数がのびています。
平成二十年度を示す×印の線

夏・秋の佐原の大祭がそれぞれ三日間無事に行なわれたことや、いくつかのマスコミに大きく取り上げられたこと等が考えられますが、市民のみならず、市民の思いを結集されたこと、この表れであること、に疑いの余地はありません。

入館者総数はすでに十一万七千九百八十二人に達し、あと三ヶ月を積み上げれば待望の十五万人を超えることは確実です。

去る十二月末現在の段階で、入館者総数はすでに十一万七千九百八十二人に達し、あと三ヶ月を積み上げれば待望の十五万人を超えることは確実です。

町並みを歩いて

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

水戸藩士が創業者
大高茶舗(水戸屋)

お店は、忠敬橋のすぐそばにある。約二五〇年前水戸藩士であった初代が煙草製造と製茶業の店を佐原に開いた。



大高茶舗の雲井の肖像と刻印のある壺

煙草」の総代理店としてハワイ、中国、朝鮮まで取引先があった。明治三十七年の専売制度の開始後はタバコと茶の販売を行なってきた。

那珂湊の芸者「雲井」の彩色浮き彫りとポスター、丸に十字の刻印のある大きな壺を店頭で見ることが出来る。煮物が甘くないと

「亀村が遠い」

亀村本店(大和屋)

お店は、忠敬記念館駐車場の入り口のすぐ隣にある。

創業は享保三年(一七一八)。初代大和屋三郎兵衛は大和の出で、特に砂糖や燐寸の卸で有名。現在の建物は明治三十七年(一八九四)の建築。袖倉としてあ



立派な土蔵のある亀村本店

佐原町並み交流館の「落書き帳」より

(相生市) (交流館に備えてあるノートの走り書きから)

おトイレにはびっくりしました。はるばる神奈川より青春18切符で来ました。佐原の町に住んでいる人も町並みも日本一です。心からそう思いました。

ぜひもう一度七月の大祭には佐原を訪れたいと思います。(茨城県筑西市)

(その二)

る土蔵は明治三十七年の建築。江戸時代には自前の船を持ち、江戸から商品を仕入れたという。鉄道に代わってからも毎月貨車一輛分のマツチを仕入れた時期もあった。本社より有数の優良代理店として認められ、そのしるしとして贈られた「桃の浮き彫り入りの看板」が今でも座敷正面に掲げられている。

砂糖が売れた煮物が甘くないと「亀村が遠い」と言われたほどで砂糖がよくなりました。カルメ焼き、水あめ、さらめ砂糖、白ざらめ砂糖を量り売りで販売する。珍しい座売り。今ではめずらしくなった座売りの対面販売で対話もはずむ。

伊能忠敬について知った

私は、小学生の頃、伊能忠敬について少し勉強していましたが、「地図を作った人」ということだけで、測量の道具や地図の種類など細かい事は知りませんでした。

観光案内に感謝の礼状

(その4)

なりました。今回、忠敬記念館で色々知ることが出来てとてもよかったです。説明はわかりやすく、メモを取る大事な所も言っていた下さりありがとうございます。(松戸市内中学校一年男子)

今度は家族でゆっくり

先日の校外学習では、お世話になりました。もし私達が町並み案内の方がいなくて記念館に行ったら、時間もないので、展示物を少しだけ見て帰ることに

なりました。短時間の中で、忠敬のことをくわしく学ぶことが出来ました。私は、また家族で佐原に行きたいと思えます。記念館を一時の間もじゅっくり歩きたいです。

佐原まちぐるみ博物館 企画展 第四回 さあから 雛めぐり 雛の想いにふれて 2009年 2月5日(木)~3月22日(日) 場所:香取市 佐原まちぐるみ博物館 「地域のおひなさま展」 佐原町並み交流館 同時開催 伊能忠敬記念館 「伊能家のおひなさま」 2月7日(土)~3月22日(日) ●JR成田線佐原駅下車 徒歩15分 古い町並み周辺 ●高速バス 京成・関鉄 JR東京駅から85分 佐原まちぐるみ会では会費を募集しております。 佐原まちぐるみ会 TEL 080-5455-7577

佐原町並み号

ボンネット・バスで巡る 佐原のまち

運行予定日:

2月22日(日)・3月7日(土)

3月15日(日)・3月29日(日)

各日とも10:30と13:30の二回 (約2時間) 予約先着25名

問い合わせ先:佐原町並み交流館

電話 0478-52-1000

町並み案内人

礼状に励まされ、自分流で

(その四) 渡辺完三さん

かんぞう

約十年ほど前は佐原の町並みを訪れる観光客は少なく、観光バスが巡ってくる所は香取神宮と水生植物園くらいでした。

そこで、佐原市商工会議所が三年計画で「佐原の町並みへ観光客を誘導する」一大キャンペーンを展開することになり、定年直後でもあった渡辺さんに香取神宮で観光客に「町並み」のパンフレットを配布する仕事の依頼が来ました。二ヶ月ほど経つと予想もしていなかった事態がおこりました。観光客が町の重伝建地区の古い町並み見物に集まり始め、観光バスのために交通渋滞まで起っていたのです。



小野川沿いの説明をする渡辺さん

すでに、三菱館での「町並み案内」が活動を始めていましたので、役員の方のすすめで、ボランティア活動ではあるがどうですかというお話がきて、この活動に入りました。渡辺さんは、法界寺の参道近くの香取街道に面した家に生ま

は、日常会話をしながら佐原のポイントを説明していきます。沢山のお札の手紙が届きます。その一枚一枚が「大きな励みです」と言い、「案内といっても、一律に決まったやり方があるわけではありません。ぜひ関心のある方に町並み案内ボランティアの活動に加わってほしいです」と渡辺さんは望んでいます。

「平成百景」にノミネートされる

読売新聞社創刊135周年を記念して実施される「平成百景」事業に香取市の「佐原」が全国300候補地の一つにノミネートされました。ご家族・お知り合いの方々に応援を呼びかけてください。

【投票方法】

郵便はがきの場合:

(表) 送り先: 〒119-0237

郵便(株)日本橋支店読売新聞社 「平成百景」係 御中

(裏) 66 佐原(さわら)

氏名(フリガナ付き)、性別、年齢、職業、住所、電話番号の六項目は忘れずに書いてください。

インターネットの場合:

http://www.yomiuri.co.jp/feature/heisei100/

締め切り 3月1日(日) 当日消印有効